特許協力条約

REC'D 2 6 NOV 2004

PCT

WIPO PCT

特許性に関する国際予備報告(特許協力条約第二章)

(法第12条、法施行規則第56条) [PCT36条及びPCT規則70]

出願人又は代理人 の普類記号 JSONY-422PCT	今後の手続きについ	ては、様式PCT/、	I PEA/41·6を参照すること。
国際出願番号 PCT/JP03/11572	国際出願日 (日.月.年) 10	. 09. 2003	優先日 (日.月.年) 18.09.2002
国際特許分類(IPC) In	t. C1' H03G3	3/10 H03F1	/32
出願人 (氏名又は名称)	ソニー株式会社	t.	
			. •
1. この報告書は、PCT35条に基づ 法施行規則第57条 (PCT36条) (			予備審査報告である。
2. この国際予備審査報告は、この表紙	を含めて全部で	4 ~	<b>ジからなる。</b>
3. この報告には次の附属物件も添付される。 a 附属書類は全部で	れている。 ページである	• .	
□ 補正されて、この報告の基 囲及び/又は図面の用紙(			関が認めた訂正を含む明細書、請求の範 参照)
第1個4.及び補充欄に示 国際予備審査機関が認定し		おける国際出願の開	示の範囲を超えた補正を含むものとこの
b 電子媒体は全部で 配列表に関する補充欄に示す ブルを含む。(実施細則第8		説み取り可能な形式	(電子媒体の種類、数を示す)。 による配列表又は配列表に関連するテー
4. この国際予備審査報告は、次の内容	 を含む。		
<ul><li>第 I 欄 国際予備審査章</li><li> 第 I 欄 優先権</li></ul>			
第二個 新規性、進歩性		能性についての国際	予備審査報告の不作成
□ 第IV欄 発明の単一性の 区 第V欄 PCT35条( けるための文稿	2)に規定する新規性、	進歩性又は産業上の	利用可能性についての見解、それを裏付
第VI欄 ある種の引用で 第VI欄 国際出願の不便			
i and the second	トス音目	• •	· ·
第四欄 国際出願に対す	<b>する意見</b> 		
第四欄 国際出願に対す	する意見 		
i and the second	ける意見	国際予備審査報告を	全作成した日 2. 11. 2004
第四欄 国際出願に対す 国際予備審査の請求事を受理した日 03.02.2004 名称及びあて先			2. 11. 2004
国際予備審査の請求書を受理した日 03.02.2004	)	0 2	2. 11. 2004 最のある職員) 5 J 9180

## 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP03/11572

第Ⅰ欄 報告の基礎
1. この国際予備審査報告は、下配に示す場合を除くほか、国際出願の言語を基礎とした。
この報告は、 語による翻訳文を基礎とした。     それは、次の目的で提出された翻訳文の言語である。
2. この報告は下記の出願書類を基礎とした。(法第6条(P.C.T.1.4条)の規定に基づく命令に応答するために提出された差替え用紙は、この報告において「出願時」とし、この報告に添付していない。)
X 出願時の国際出願事類
明細書       第
「請求の範囲       項、 出願時に提出されたもの         第       項*、PCT19条の規定に基づき補正されたもの         第       項*、
図面       第 ページ/図、 出願時に提出されたもの         第 ページ/図*、
□ 配列表又は関連するテープル 配列表に関する補充欄を参照すること。
3.
4. □ この報告は、補充欄に示したように、この報告に添付されかつ以下に示した補正が出願時における開示の範囲を超えてされたものと認められるので、その補正がされなかったものとして作成した。 (PCT規則70.2(c)) 明細書 第 ページ 間求の範囲 第
関系が配置 第 項 図面 第 ページ/図
* 4. に該当する場合、その用紙に "superseded" と記入されることがある。

## 特許性に関する国際予備報告

国際出願番号 PCT/JP03/11572

	それを裏付ける							
. 見	笲	· ·.	:	٠٠.			:	
ر صد ۱۰۰۰	٠		•		,			
初現的	性 (N)	•	請求の範囲・		1-6	-		
			請求の範囲	<del></del>		<del></del>		
准长机	生(IS)							
進少に	£ (15)	•	請求の範囲 請求の範囲		6			
			143/4/48位1	· · · · ·	1-5	<del></del>		_
産業」	Lの利用可能性 との利用可能性	<b>⊭</b> (ΙΑ)	請求の範囲	•		•	•	ı
	# - 1 et et et e	. (	弱水の範囲 請求の範囲	<del></del>	1-6	<del></del>		:
						<del></del>	<del> </del>	:
文商	大及び説明(P	CT規則7	(0, 7)					
		•	•		A		•	
			37406 A				•	•
猫文	z:P	11 —	- 2 2 1 1 6 7	全文、第1 7 A(京·	2 Juli-12 A 't	· <b>丁</b> /		
人心	190	90 1	20000	、A.(株式	会社日立製作	作所)	•	
猫文	$4:\bar{J}P$	200	1 - 223	EX、至凶 5 4 9 A	(ソーニ姓=	14A4		
本番や	$\frac{200}{100}$	) 1. 0	$ \begin{array}{cccccccccccccccccccccccccccccccccccc$	<b>全文、図1</b>	· 11 ·	(安仁)	•	
	107	7 2 7	20000	$\mathbf{A} \cup \mathcal{N}$	ノク電気株式	(公計)	•	
文献	6:日本国	国実用新	安於紀山師 5	上文、王凶			- proper calcular analysis region flowing a	
	公開 5	5 5 - 5	1030号) フィルム (ハ	の願書に	LOO4ヶ 系付した明刹	プロタ国大 関本の対象	用新菜登録	出身
	したマ	マイクロ300	フィルム(ハ	木アンテー	大株式会社)	H B A U A	同小い 144.年1	取永
猫文	$7: \overrightarrow{JP}$	5 3 <del>-</del>	4. U3 穿 60546			المحتجد/		
文献	8 : J P	6 - 3	34151	/\ /125= <del></del> 2		所)		
一請	求の範囲1	ે. વ	11000	CPP [UU(	) / ] — [O	013]	、図1	
	際調本報生	で掲示	ナルを大松っ	77.5-0.1-1		•	•	r::r
נו ובבו	つる 第10	)FET	レ該第1の正	Tr. Com and the	~ \	パンショ	方かり一トル	CH.
加され	ふたけり	エリリア	たがおさいた	FIOF	インにソー	・人か接続	されの思りの	ノロ
四され いてス E T	から成り、 カドレイン	互いに気が出通り	第1のFET に接続される	のソースが		へか佞舵	ともに第20	クF クF
加され いてス ETA	から成り、 クドレイン 変利得 <del>増</del> 幅	互いに気が共通している。	第1のFETに接続される	のソースが複数のデュ	が共通に接続 ・アルゲート	スか佞航 されると 型FET	とから構成さ	りF
加ETTのまた。	から成り、 のドレイン 変利得増幅 と、国際語	互いに が共通し 器がそれ 音器がそれ	第1のFET に接続される れぞれ記載されて	でシースカースカーを対している。	が共通に接続 ・アルゲート	されると型FET	とから構成さ	りょれ
加とというがある。	から成り、 のドレイン 変利国際 を を を を を を を を を を を を を を を を を を を	互いに が共通し 器が発表 を発	第1のFET に接続される れぞれ記載され で提示された	、 の 対 の が が で が で が で に で で に で に で に で に で に で に に で に に で に に に に に に に に に に に に に	が共通に接続なアルゲート 60図参照)	であると 型FET 又は文献	とから構成さ	りょれ
加EEる・続印のでは、	からがいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	互が共産権を対する。	第1のFETるさにれてと知れてと知れていた。	つが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	「共通に 大選に 大選に 大選に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学	へたで で で で れ を で で で で で で で で で で で で で で	とから構成さ 4には、並列 個に制御電用	DFれ 接を
加EEる・続印図さてて可まさ加	からがいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいいい	互が共産権を対する。	第1のFETるさにれてと知れてと知れていた。	つが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	「共通に 大選に 大選に 大選に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学	へたで で で で れ を で で で で で で で で で で で で で で	とから構成さ 4には、並列 個に制御電用	DFれ 接を
加EEる・続印しいがなった。	から いい いい がい がい がい でい でい でい でい でい でい でい でい でい で	互いに が お お き は の は の 能 で に の 能 で の に の に の に の に の に の に の に の に の に の	第1のFET のFET に が 接 に だ 表 に で 表 に で 表 れ こ さ れ で さ れ で さ れ で さ 、 で も れ で も れ で も れ で も れ で も れ と れ り と り し れ り と り し れ り し り し り し し に り に り に り に り に り に と り に と に と に と に	つが、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは	「共通に 大選に 大選に 大選に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学に 大学	へたで で で で れ を で で で で で で で で で で で で で で	とから構成さ 4には、並列 個に制御電用	DFれ 接を
加EEるに続印し、一門さてて可まさ加よない語がよる。	かのできていた。 いのできていた。 いのでが、 いのででは、 いのででは、 いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと いっと	互が器を開きている。	第1のFET のFET のFE に が に で と に で と に で と に で と に さ に さ に さ れ に さ れ に さ れ に さ れ に と れ に と れ に れ と れ と れ と れ と れ と れ と	へかった。第一の複れでは、一の複れでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一のいでは、一つでは、一つでは、一つでは、一つでは、	・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	へ さ 型 ス な な な な な な な に に 記 れ に に に に に に に に に に に に に	といい は	Pranting 接を有
加EEる・続印 し ー に留さTT可まさ加よな 請国る所国の	かの変をないって、 たりだ利、た得て。の調氏 成レ得国複る、 範査下 成とは関数複請 囲報と 、と解析の数求 2倍該	互が器査増のの にでF い共が報幅電範 つ提F の提F	第1のFEれ載れでと制1 てきの下とれ載れぞと4 ボンインのでは、御り エルドン・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	ででは、 ででは、 ででである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でである。 でいる。 のい。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のい。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のい。 のいる。 のいる。 のいる。 のいる。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい。 のい	「 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	へ さ 対 が れ 下 は い れ に え に れ に に れ に に れ に に に れ に に に れ に に に に に に に に に に に に に	ともに 第20 され は から は 御に 制 が が が が で は 御 に 都 で が で が か が が が が が が が が が が が が が が が	DA NE A
加EEる・続印しーにいいるでは、これでは、一つでは、これには、計画るらいでは、対象を対しては、対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対象を対	かの変をないって、 対象であるがの変をないです。 の調正の成と得国複る、 範査工場的イ増際数複請 囲報と幅のイ増際数複請 囲報と幅の数求 2 告該契	互が器査増のの にでFはい通そ告器圧囲 い示Tu	第1のFET のFET に が 接 に だ 表 に で 表 に で 表 れ こ さ れ で さ れ で さ れ で さ 、 で も れ で も れ で も れ で も れ で も れ と れ り と り し れ り と り し れ り し り し り し し に り に り に り に り に り に と り に と に と に と に	つ複れ文のら係 にエンツ数て献増構る 見ミースデる(器す明 れター	- - - - - - - - - - - - - -	へさ型 又互ぞ1 かれF はいれ~ 信イ なるE 文に記4	とと 4個さよ ゲランの により は制て進 トランの にんり トランド から から は から から は から	DA 別E と 「SA

## 補充欄

いずれかの欄の大きさが足りない場合

## 第 V 欄の続き

ー請求の範囲5について-

国際調査報告で提示された文献6には、カスコード型可変利得増幅器において、信号入力部と信号出力部とを接続する帰還路を設けることが記載されている。よって、請求の範囲5に係る発明は、文献1~6により進歩性を有しない。

-請求の範囲6について-

請求の範囲 6 に係る発明は、国際調査報告で提示されたいずれの文献にも記載されておらず、また当業者にとって自明なものでもない。